

平成26年度 清水特別支援学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。
・その他

(御意見を伺った方)

学識経験者、島寺地区自治会 会長、朝日南保育所 所長 福授園当田事業所 所長、
卒業生と親の会しみずっこの会 会長、 PTA会長

(御意見)

○教育課程・学習指導・研修

- ・授業改善の意識が高く、実践に結びついていることが素晴らしい。公開授業を見て、一人一人に応じた支援と丁寧さに感心した。
- ・教員の指導意欲が公開授業や授業研究会により高まっていることがわかる。授業改善に努めている教師の姿勢が保護者に理解されてよかった。
- ・「授業改善がまだ十分にできなかった」と答えた教員の分析が今後必要ではないか。
- ・研修会の開催にあたっては内容や時間を吟味し、教員が目の前の児童生徒に向き合う時間が確保されるようにしてほしい。
- ・「キャリア教育」は12年間を見据えたものになるが、実際にはなかなか難しいところもある。まずは学部間で連携した取組をお願いしたい。

○生徒指導

- ・児童生徒が安全に安心して学校生活を送れることできる学校の環境づくりは大切であり、今後も是非、未然防止の観点で改善をお願いしたい。
- ・危機管理の意識を職員間で共有がなされていることがとてもよい。
- ・災害に関する危機管理は今後も進めていってほしい。特に気候変動も大きいので常にマニュアルの見直し、改善が必要である。
- ・避難訓練は積み重ねることが大切だと感じた。
- ・災害伝言ダイヤルのことを本校の取組から学んだ。

○進路指導

- ・保護者に進路のことを考えてもらえるきっかけとなる保護者懇談会は重要である。また、教員や身近な保護者からの情報提供やアドバイスは大切であり、努力している様子が伝わる。
- ・進路学習会等の参加者が少ない理由を考えてほしい。保護者同士のつながりができるとよい。
- ・PTA懇親会で進路の話題を出したが、入学したばかりの保護者はまだまだ意識しない。小学部段階から関心を高めてもらうための工夫を教員も考えていけるとよい。
- ・アンケートの集計を各学部ごとに行くと傾向がわかり、目標を持ちやすく、実践につなげやすいのではないか。

○支援

- ・発達支援教室において参加された保護者の満足度が高くなっており、努力されていることが伺える。
- ・教員の特別支援教育に関する専門性を今後も高めていただきたい。

○地域との交流

- ・小学部の取組のように学校間交流校の教員、児童、保護者の評価を知ることができるのはよい。結果から、本校への理解、啓発につながったことに大きな意義を感じる。これからも続けてほしい。
- ・本校の保護者の方への写真などを活用した分かりやすい情報提供はこれからも続けてほしい。
- ・児童生徒一人一人の実態や目標に合わせた交流及び共同学習の指導内容や教員のかかわり方について今後も検討を続けてほしい。

○運営（多忙化解消）（人権）

- ・自分の時間がなくせわしい状況のなかで児童生徒に接すると、不適切な言動や態度になることがあるかもしれない。今後も多忙化解消に取り組むことでゆとりが生まれ、人権教育の推進にもつながるのではないか。
- ・行事の見直しについては、これまでの慣例にかかわらず、今後も見直しや、改善を行ってほしい。
- ・会議時間の削減のため、回覧や黒板を使った情報提供やゴールをはっきりさせた会議の持ち方の工夫も必要である。

○全体（総括）

- ・前年度の取組を受けて、今年度の取組があり、それが次年度につながっていくという流れがみえてわかりやすい。
- ・教職員が努力されていることが日ごろの活動状況からも伝わってくる。これからも、児童生徒一人一人の持っている良さを引き出して行ってほしい。

○学校評価を踏まえた今後について

- ・地域・学校協議会委員の方からいただいた貴重な御意見を真摯に受け止め、平成27年度のスクールプランの策定や業務の見直し、よりよい学校教育の在り方を検討していきたい。
- ・社会参加と自立を意識した教育実践を行っていくため、外部講師を招きながらよりよい授業づくりに努力していきたい。
- ・健康で安全な学校環境づくりについては、引き続き教職員一同の危機管理の意識を高め、事故の未然防止に全力を尽したい。
- ・進路については小・中・高等部の段階に合わせた情報提供の在り方について検討していきたい。
- ・「特別支援教育」のセンターとしての役割を果たすと共に地域との交流を通して共生社会の推進の一助を担う役割を果たしたい。